

農作物技術情報 第1号 野菜

発行日 令和8年3月19日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 排水対策をしっかりと講じるとともに、計画的にほ場の準備を進めましょう。
- ◆ 計画的なは種・育苗で、適期作業に努めましょう。
- ◆ 育苗中の苗は温度管理を徹底し、低温・高温障害の発生や徒長を防ぎましょう。
- ◆ 定植前後の地温確保、保温管理により活着の促進を図りましょう。
- ◆ 雨よけほうれんそうは、ほ場の水分不足に注意し、ハウレンソウケナガコナダニの防除対策を徹底しましょう。

1 ほ場準備

ほ場周りに排水溝を作るなど、排水対策を実施し、土壌が早く乾くようにします。また、土壌病害対策で土壌消毒や pH 改良などを行う場合は、早めにほ場の準備を行い、計画的に作業を進めます。

(1) ハウス

- ・ ハウスのビニールや保温資材（トンネルビニール、内張ビニールなど）に、穴や破れがないか確認し、ある場合は補修や交換を行いましょ。
- ・ かん水設備の準備と稼働を確認し、修理や交換が必要な場合は、早めに行いませ。
- ・ 定植に向け、適切な土壌水分を確保しておきませ。

(2) 露地

- ・ マルチを利用する品目では、適湿時にマルチを張って地温を高め、出芽や活着を促進させませ。
- ・ 水田転換畑では、額縁明きよを設置し、排水路に確実に接続できているか確認し、表面水の速やかな排出ができるようほ場を準備させませ。また、暗きよからの排水状況を確認させませ。

2 果菜類の管理

(1) 共通

- ・ 育苗中は、生育ステージに応じた温度管理に努めませ。また、高温と葉の重なり合いにより苗が軟弱徒長となるので、適宜苗のずらしを行って受光態勢を改善し、徒長を防ぎませ。
- ・ 果菜類の苗は、定植時には既に花芽分化が進んでいます（表1）。このため、定植時の低温や活着の遅れは花芽の成長やその後の果実品質にも影響するので、適温・適期での定植に努めませ。

表1 主要果菜品目の生育ステージと花芽分化

品目	生育ステージ	花芽分化
きゅうり	本葉3枚時	15節まで分化
トマト	本葉8枚時	3段花房まで分化
ピーマン	本葉13枚時	第5次分枝まで分化

また、病害虫が発生した苗を定植すると早期から被害が発生し、防除困難になる場合があります。育苗中は温度・湿度の適正管理や雑草防除、病害虫の発生状況に応じた薬剤散布を実施して、本畑への持込みを防ぎませ。

- ・ 苗のスムーズな活着を促すために、定植2週間前にはマルチを張り、地温を確保させませ。

(2) ハウスきゅうり

- ・ 3月下旬～4月上旬の定植では、保温または補助暖房が必要です。地温の上昇が期待できるマ

ルチの利用、内張りカーテンやトンネル被覆を実施するなど、地温確保と保温に努めます。

- 本葉3～3.5枚のやや若苗を定植します。定植5～6日前から夜温を15℃程度とし、順次苗のずらしを行うとともに、かん水を控えて徒長を防ぎます。
- 定植後は、根をしっかりと張らせるために主茎長30cm（または5節）までの雌花と側枝を除去します。草勢が弱い時は除去する節位を上げて草勢を回復させ、しっかりと根を張らせます。活着後は湿度をやや高めに管理し、側枝の発生を促します。

(3) 雨よけトマト

- 育苗期は夜温10℃以下にならないよう保温し、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しないよう温度管理に注意します。補助的に、育苗期のカルシウム剤の葉面散布も発生軽減に有効です。
- 苗の生長に伴い、順次鉢のずらしを行って徒長苗の防止、葉かび病等の発病防止に努めます。
- 定植は、1段花房が1～2花咲いた頃の苗をやや浅植えしますが、草勢が弱い品種はやや早植えとします。活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保します。
- 過去に、前年秋期にトマトキバガが発生したトマト栽培施設において、施設内越冬が疑われる事例が確認されていることから、育苗中からよく観察し、被害を見つけたら直ちに防除を行います。

(4) ハウスピーマン

- 育苗ハウス内は、定植20日前頃から徐々に夜温を下げ、順化します。
- 定植5日前には16℃程度まで下げ、かん水も控えめにします。肥料切れの兆候が見られる場合は、液肥を施用します。
- 定植時に地温18℃以上を確保できるようにマルチを設置し、定植後はトンネル被覆で保温するとともに、低温時に備え補助暖房の準備をします。また、定植苗が乾かないよう20～30℃程度のぬるま湯を株元に手かん水し、活着を確認した後はかん水チューブによるかん水に切り替えます。

3 葉茎菜類の管理

(1) 共通

- 育苗期の温度管理を適切に行い、苗を徒長させないように管理します。日中の高温、育苗培土の乾燥に注意し、葉色が薄い場合は、かん水を兼ねて液肥を希釈して施用します。
- 育苗後半は外気に当て、外の環境に慣らす順化を行います。

(2) キャベツ・レタス

- 定植適期の目安は、キャベツで本葉2.5～3.5枚、レタスで2.5～3枚程度です。
- キャベツ、レタスとも低温には比較的強いですが、定植後、根が活着する前に強い低温にあると枯死する場合がありますので、べたがけ資材（表2）を使い、低温、降霜、強風の被害を防ぎます（写真1）。



写真1 レタスのべたがけ被覆

表2 主なべたがけ資材とその特性

種類	素材	商品名の例	耐候性	強度	資材面の結露	透光率	耐用年数
長繊維不織布	ポリプロピレン	パオパオ 90	△	△	有	90%	1～2年
	ポリエステル	パスライト	○	△	有	90%	1～2年
割繊維不織布	ポリエチレン	ワリフ(白)	△	○	少	95%	5年
	ポリビニルアルコール	ベタロン	◎	◎	極少	93%	5～7年

引用：「施設園芸・植物工場ハンドブック」等

(3) ねぎ

- 育苗日数は、セル成型育苗やチェーンポット育苗で50～60日間が目安です。なお、チェーンポット育苗では育苗・移植作業の省力化の観点からロングピッチチェーンポット（株間10cm）の利用が大規模な経営体を中心に組み込まれています。
- 収穫調整の労力を勘案し、計画的には種・定植を行います。
- 定植ほ場の植え溝は、管理機等により深さ15～20cm程度で作溝します。土壌水分が多い時の作溝や定植は、根の活着不良や欠株の原因になるので、ほ場の排水対策を実施し、地表面が乾いて白くなるなど、適湿時を選んで作業します。



写真2 定植期のねぎ苗

(4) 雨よけほうれんそう

- ハウス内に積もった雪の融雪水だけでは、水分不足や生育ムラを生じる可能性があるため、かん水は1作目でも十分に行います。
- 低温時は、は種直後にべたがけ資材により被覆することにより出芽ぞろいが良くなります。ただし、長期間の被覆は徒長の原因になるので、出芽ぞろい後に除去します。
- 春季はハウレンソウケナガコナダニが発生しやすいので、次の対策を行います。また、前年に被害が多発したハウスでは、は種前・は種～本葉2葉期までの土壌処理剤と、その後の茎葉処理剤との併用による防除を行います。
 - ①未熟な堆肥・有機物（粃殻、わら等）、有機質肥料・資材の施用を控える。
 - ②土壌表面が乾燥しないように生育中のかん水を行う。
 - ③被害株をほ場外に持ち出して処分する。

4 肥料コスト低減に向けて

令和4年に急騰した肥料価格はその後低下傾向にありますが、依然として高止まりが続いています。このため、土壌診断に基づく適正施肥や、たい肥などの有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等により、コスト低減に努めましょう。

岩手県では、肥料コスト低減に向け、下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/res/projects/project_agri/page/002/004/581/hiryoukosutoteigen0406.pdf

山火事防止運動実施中！ [2月26日]

[~5月31日]

「山火事を起こすも防ぐも私たち」

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は4月23日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。